

平成26年度 事務事業評価シート

平成25年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	青少年教育の充実						継続					
コード	25	-	84	-	01	-	00	予算事業名	青少年教育の充実			
担当部署	教育総務部	地域教育支援課	地域教育支援担当	予算事業コード	会計	10	款	10	項	06	目	01

1. 事業の位置付けと関連計画、関連事業等

第三次川越市総合計画上の位置付け(太枠内)		位置付けなしの場合	法令による実施義務	義務ではない
基本目標(章)	2章	学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐくむまち	実施計画事業名	なし
方向性(節)	1節	活力ある地域を創る生涯学習の推進	個別計画等の名称	川越市教育振興基本計画
施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	当事業に関連する事務事業	なし
細施策	3	地域の教育力の向上		
事業実施の根拠となる法令・条例等	なし			

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	子ども会・育成会会員を対象に、子ども会リーダーの養成と育成者としての役割を学び、子ども会活動を盛んにする。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	川越市子ども会育成団体連絡協議会(市子連)との共催で、子ども会リーダーの養成講座(ジュニアリーダースクール)や市子連役員・校区育成会長・単位子ども会育成会長及び予定者を対象にした研修会を実施する。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額	5,767	5,711	4,047	5,405	5,244	
(26年度予算額大幅増/減の理由)						
事業費 A	5,435	5,545	3,893	5,205	5,244	5,244
人件費 B	3,669	5,136	6,261	5,136	5,136	5,136
総コスト(C = A + B)	9,104	10,681	10,154	10,341	10,380	10,380
正規職員(1年間の従事人数)	0.50人	0.70人	0.70人	0.70人	0.70人	0.70人
臨時職員(1年間の従事人数)	0.00人	0.00人	1.00人	0.00人	0.00人	0.00人
国県支出金 D	0	0	0	0	0	0
その他特定財源 E	0	0	0	0	0	0
市の財政負担(= C - D - E)	9,104	10,681	10,154	10,341	10,380	10,380

26年度、27年度の事業費、人件費は見込額
非常勤職員の給与は事業費に、臨時職員の給与は人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

評価指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度目標値	将来目標値
成果	ジュニアリーダースクール認定率	%	91.8	93.2	97.3	(目標) 95.0 (実績) 89.9	95.0 27年度 95.0
成果	新規ジュニアリーダー登録率	%	85.7	84.1	89.0	(目標) 85.0 (実績) 90.8	85.0 27年度 85.0
活動	子ども会育成者研修会開催回数	回	2	2	2	(目標) 2.0 (実績) 2.0	2.0 27年度 2
活動	ジュニアリーダースクール開催回数	回	5	5	5	(目標) 5.0 (実績) 5.0	5.0 27年度 5

指標に基づく評価
認定率は下がったものの、登録率は高い数字を残した。ジュニアリーダースクールについては、スクール修了後出身校区のジュニアリーダースクラブに登録し活動していくことが原則となっているため、安定して高い目標値を達成できるよう方策を考えていきたい。

5. 事業の実施を通じた分析

(1) 現在の課題と状況	公平性に課題
本市における青少年教育に関わる重要な担い手である川越市子ども会育成団体連絡協議会(市子連)に対し、共催事業等を通じて支援を行っている。しかし、現在市内にある32小学校区のうち市子連の非加盟校区が5校区あり、その児童や保護者・育成者が実施事業に参加することが出来ない状況にあることから、その地域の青少年教育についてどのように支援を行っていくかが課題である。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	子ども会活動は、青少年が豊かな人間性やコミュニケーション能力を身につける貴重な機会であり、そのリーダーとして知識や技術を習得する場であるジュニアリーダースクールは、必要不可欠な事業の一つである。また、子ども会育成者研修は、子ども会活動を支援し、より充実したものにすることを目的として実施しており、事業を廃止・縮小した場合、活動の停滞が懸念される。

平成26年度事務事業評価 方向性提示シート

所管部署		教育総務部				地域教育支援課	地域教育支援担当
事務事業名称		25	84	01	00	青少年教育の充実	
今後3年間の方向性	26年度	継 続					
	27年度	継 続					
	28年度	継 続					

平成26年度 事務事業評価シート

平成25年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	地域子どもサポート推進事業					継続									
コード	25	-	84	-	03	-	00	予算事業名	川越・地域子どもサポート推進						
担当部署	教育総務部		地域教育支援課		地域教育支援担当		予算事業コード	会計	10	款	10	項	06	目	01

1. 事業の位置付けと関連計画、関連事業等

第三次川越市総合計画上の位置付け(太枠内)		位置付けなしの場合	法令による実施義務	義務ではない
基本目標(章)	2章	学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐくむまち	実施計画事業名	地域子どもサポート推進事業
方向性(節)	1節	活力ある地域を創る生涯学習の推進	個別計画等の名称	川越市教育教育振興基本計画
施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	当事業に関連する事務事業	なし
細施策	3	地域の教育力の向上		
事業実施の根拠となる法令・条例等	なし			

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	市民、学校・教育施設職員を対象に、子どもたちの「生きる力」を育むために、学校教育と社会教育の結びつきや相互支援をねらいとし、関わる人の意識改革を図りながら、職員と市民の協働による、川越市にふさわしい子どもサポートを推進する。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	市内を14地区に区分し、市民・市職員(社会教育施設)・教員からなるサポート委員会を設置し、事業を展開する。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額	8,365	6,508	5,966	5,543	5,411	
(26年度予算額大幅増/減の理由)						
事業費	A	7,913	5,733	5,702	5,368	5,411
人件費	B	12,473	13,207	13,207	13,207	13,207
総コスト(C = A + B)		20,386	18,940	18,909	18,575	18,618
正規職員(1年間の従事人数)		1.70人	1.80人	1.80人	1.80人	1.80人
臨時職員(1年間の従事人数)		0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
国県支出金	D	2,727	1,408	1,342	1,286	1,300
その他特定財源	E					
市の財政負担(= C - D - E)		17,659	17,532	17,567	17,289	17,318

26年度、27年度の事業費、人件費は見込額
臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

評価指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度目標値	将来目標値
成果	各地区地域子どもサポート事業	人	15,409.0	22,196.0	33,696.0	(目標) 35,380.0 (実績) 32,848.0	27年度 33,000.0
	指標の定義・説明	事業全体に関わった人数					
成果	各地区地域子どもサポート事業	回	203.0	269.0	352.0	(目標) 362.0 (実績) 709.0	27年度 650.0
	指標の定義・説明	全地区事業数					
活動	各地区地域子どもサポート委員会	人	569.0	572.0	607.0	(目標) 625.0 (実績) 615.0	27年度 625.0
	指標の定義・説明	サポート委員数					
活動	サポート委員会による学校支援事業	回	138.0	144.0	225.0	(目標) 230.0 (実績) 569.0	27年度 550.0
	指標の定義・説明	学校支援事業数					
指標に基づく評価	各指標をもとに着実に増加し、各地域に子どもたちの「生きる力」を育む重要性が認識されつつある。内容の充実が図られている。						

5. 事業の実施を通じた分析

(1) 現在の課題と状況	公平性に課題
・市内14地区のうち、地区内の関係する学校数が2校であったり、9校であったりと偏りがある。また、サポート委員の人数に差がある。市内全域で十分な活動が行われるよう、引き続き支援が必要である。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	
・各地域に根付いてきている「子どもへの支援」に関する地域住民の意欲が衰退する。 ・地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりが衰退する。	

平成26年度事務事業評価 方向性提示シート

所管部署		教育総務部				地域教育支援課	地域教育支援担当
事務事業名称		25	84	03	00	地域子どもサポート推進事業	
今後3年間の方向性	26年度	継 続					
	27年度	継 続					
	28年度	継 続					

行政評価・外部評価

追加資料

- 資料1 平成25年度 青少年教育の充実事業一覧
- 資料2 川越市子どもジュニアリーダースクール（第32期生）
- 資料3 第11回川越市子ども会かるた大会
- 資料4 川越市・棚倉町交流事業
- 資料5 川越市子ども会育成者研修会
- 資料6 川越市子ども会育成団体連絡協議会 加盟校数調べ
- 資料7 川越・地域子どもサポート推進事業
- 資料8 地区サポート委員会の構成
- 資料9 地区サポート委員会の主な活動

平成25年度 青少年教育の充実事業一覧

資料1

	事業名	事業内容	事業形態	H25延回数	H25延参加者数	H25決算額
1	川越市子ども会ジュニアリーダースクール	ジュニアリーダーとしての知識・技術を身につけ、子ども会活動の指導者を育成する。	共催	5回	475人	237,221円
2	川越市子ども会かるた大会	かるた大会をとおして、参加者の交流を図る。	共催	1回	868人	277,026円
3	棚倉町・川越市子ども会交流事業	友好都市交流事業を通して、他県の環境に親しみ、視野を広め協調性・自主性を育てる。	共催	1回	16人	227,993円
4	川越市子ども会育成者研修会・新育成者研修会	子ども会育成者としての資質の向上と単位子ども会活動の振興を図る。	共催	2回	700人	83,600円
5	川越市子ども会ジュニアリーダー養成事業委託	子ども会活動を支援するための指導者養成として、市子連へ事業委託する。	委託	18回	2,400人	180,000円
6	川越市子ども会育成事業委託	子ども会の健全な育成と発展を図るため、地域の子どもの会育成団体連絡協議会へ事業委託する。	委託	135回	10,653人	840,000円
7	川越市子ども会育成団体連絡協議会事業費補助金	川越市子ども会育成団体連絡協議会の事業を支援するため補助金を交付する。	補助金	1回		333,000円
8	川越市子ども会育成団体連絡協議会事務援助	川越市子ども会育成団体連絡協議会の運営を支援するため、事務援助を行う。	事務援助	回		9,110円

川越市子ども会ジュニアリーダースクール（第32期生）

趣 旨 子ども会の充実を図るために、基礎的な理論、実技、社会性を継続的に学習することにより、子ども会に望まれる知識・技能、指導する力、望ましい態度を身につけ、川越市子ども会会員のモデルとして活躍できる基礎的な力をつける。

主 催 川越市教育委員会・川越市子ども会育成団体連絡協議会

対 象 川越市子ども会会員の小学校6年生で、川越市ジュニアリーダーとして積極的に活動する意思を有する者

期 間 平成25年6月9日（日）～10月6日（日）（全5回開催）

経 費 無料（但し、第4回講座の野外学習参加の際、実費負担があります）

会 場 川越市立川越小学校体育館・川越市中央公民館・埼玉県立小川げんきプラザ

学習内容

	日 時	会 場	内 容	講 師	出席者
1	6月9日（日） 午前8時30分～正午	川越市立 川越小学校 体育館	*開校式 *オリエンテーション *ジュニアリーダーの役割 と活動	サポーター （ユースリーダー）	102人
2	7月7日（日） 午前9時～正午	川越市 中央公民館	*ジュニアリーダーの役割 と活動 *レク・ゲームの基礎	鈴木 泰生 サポーター （ユースリーダー）	99人
3	8月18日（日） 午前9時～正午	川越市 中央公民館	*ジュニアリーダーの役割 と活動 *KY（危険予知）・応急手 当について	市子連役員 小島 隆良氏	86人
4	9月8日（日） 午前8時～午後4時	埼玉県立 小川げんき プラザ	*野外活動の基礎・実践 *レク・ゲームの実習	サポーターほか （ユースリーダー） 川島 しのぶ	96人
5	10月6日（日） 午前8時30分～正午	川越市立 川越小学校 体育館	*ジュニアリーダーの役割 と活動 *レク・ゲームのまとめ *閉校式 *校区紹介	サポーター （ユースリーダー）	92人

延参加者数 475人（出席率87.16%）

受講生

	男	女	計
受講者	40人	69人	109人
退会者	3人	7人	10人
認定証授与者	37人	61人	98人

* 認定証は全5回の講座終了時において4回以上の出席者に授与

第 11 回川越市子ども会かるた大会

- 趣 旨 (1) 「かわごえ郷土かるた」を活用することで「5つのめあて」の達成を図る。
 (2) 高学年上位4チームは県大会へ出場し、県内の子ども会と競技することで交流を深めることを目的とする。

『5つのめあて』

遊びの楽しさ「伝承」
 がんばる心と体「生きる力」
 心のふれあい「コミュニケーション」
 礼儀とルール「約束」
 郷土を知る「地域」

主 催 川越市教育委員会・川越市子ども会育成団体連絡協議会

日 時 平成25年11月10日(日) 9:00~16:00

会 場 川越運動公園総合体育館

日 程 開会式 9:15~9:45

- ・開会のことば
- ・来賓あいさつ
- ・競技上の注意
- ・閉式のことば
- ・主催者あいさつ
- ・優勝杯返還
- ・選手宣誓

予 選 9:55~11:45

決 勝 12:25~15:15

閉会式 15:25~15:55

- ・開式のことば
- ・表彰
- ・主催者あいさつ
- ・成績発表
- ・講評
- ・閉会のことば

団体戦	高学年の部	49チーム
	低学年の部	27チーム
個人戦	高学年の部	51人

参 加 者 川越市子ども会育成団体連絡協議会の各校区子ども会代表他868人

運営役員等の構成

総括責任者・司会進行係・かるた進行係・審判長・審判員・読み手・記録掲示係・
 受付係・会場係・音響照明係・接待救護係・駐車場係

川越市・棚倉町交流事業

1 川越市児童ホームステイ参加

目的	友好都市交流事業に参加することにより、他県環境に親しみ、視野を広め 協調性・自主性を育て健全なる成長に資する。
主催	川越市教育委員会・川越市子ども会育成団体連絡協議会 棚倉町教育委員会・棚倉町子ども会育成連絡協議会
期日	平成25年8月24日(土)～25日(日) 1泊2日
内容	8/24...歓迎のつどい(対面式) 乗馬体験 ホームステイ 8/25...お別れ式
宿泊	各ホームステイ先
参加者	川越市の児童(小学4～6年生)...男子9人、女子7人 計16人
交通機関	マイクロバス 1台(借り上げ)

2 棚倉町児童ホームステイ受け入れ

目的	友好都市交流事業に参加することにより、視野を広め協調性・自律性を育て 健全な成長に資する。
主催	川越市教育委員会・川越市子ども会育成団体連絡協議会 棚倉町教育委員会・棚倉町子ども会育成連絡協議会
期日	平成25年10月26日(土)～27日(日) 1泊2日 台風で中止。2月8日(日)への延期 参加予定者8人(大雪で中止)
内容	10/26...歓迎のつどい(対面式) ホームステイ 10/27...ホームステイ お別れ式
会場	中央公民館及び受け入れ家庭
宿泊	各ホームステイ先
参加者	棚倉町の児童(小学校4～6年生)...男子6人、女子6人 計12人 2月8日予定 男子6人、女子5人 計11人 川越市の児童及び家族 12人(11家族)
交通機関	中型バス 1台

川越市子ども会育成者研修会

主 催 川越市教育委員会・川越市子ども会育成団体連絡協議会

1 育成者研修会

趣 旨 単位子ども会育成者の資質の向上を図るとともに、子ども会活動の健全な育成推進に資する。

期 日 平成25年5月11日(土) 午後2時40分～4時20分

会 場 川越南文化会館

講 師 埼玉県社会教育委員 高橋 美智子 氏

演 題 テーマ「子ども会活動の充実と安全対策～KYT 危険度チェックの進め方～」

対象・参加者 単位子ども会育成会会長等 350人

2 新育成者研修会

趣 旨 子ども会及び育成会の現状と課題について情報を交換し、解決のための知恵を出し合い、育成者としての資質の向上を図るとともに単位子ども会活動の振興の一助とする。

期 日 平成26年3月1日(土)

日 程 全体会 午後1時20分～2時50分
分散会 午後3時00分～4時00分

会 場 川越市市民会館やまぶき会館

内 容 全体会
・開会行事
・スライドによる川越市子ども会育成団体連絡協議会の事業紹介
・講演会「インターネットや携帯電話等と子どもたち」
広島県教科用図書販売株式会社 好本 仁朗 氏

分散会
・校区会長、単位会長、校区会計分散会
・市子連理事分散会
・ジュニアリーダー代表専門員分散会

主 題 「ふるさと川越を大切に作る子どもたちのために」

子ども会の充実

育成活動の拡充

引継ぎ伝達

対象・参加者 新単位子ども会育成会長、新校区会長・会計
新川越市子ども会育成団体連絡協議会理事
新ジュニアリーダー代表専門員等 350人

川越市子ども会育成団体連絡協議会 加盟校数調べ

平成26年度4月6日現在

対象校区	児童数	児童数 / 全児童数
全小学校区 (3 2 校)	17,657 人	100.0%
市子連加盟小学校区 (2 7 校)	15,532 人	88.0%
市子連非加盟小学校区 (5 校)	2,125 人	12.0%

	合 計	17,657
1	川越第一小	629
2	川越小	628
3	中央小	455
4	仙波小	779
5	武蔵野小	698
6	新宿小	653
7	大塚小	416
8	泉小	498
9	月越小	353
10	今成小	386
11	芳野小	329
12	古谷小	542
13	南古谷小	975
14	牛子小	765
15	高階小	638
16	高階南小	398

17	高階北小	689
18	高階西小	465
19	寺尾小	428
20	福原小	805
21	大東東小	650
22	大東西小	672
23	霞ヶ関小	638
24	霞ヶ関西小	539
25	上戸小	485
26	広谷小	364
27	山田小	655

15,532

1	霞ヶ関南小	226
2	霞ヶ関北小	581
3	霞ヶ関東小	319
4	川越西小	474
5	名細小	525

2,125

1. 目的 子どもたちの生きる力をはぐくむため、学校、家庭、地域、社会教育施設が一体となって、地域ぐるみで子どもたちの様々な活動を支援する。

(1) 趣旨

子どもたちの生きる力をはぐくむための子どもサポートを推進する。

子どもたちの活動を支援する学校、家庭、地域、社会教育施設のネットワークを構築する。

(2) 子どもサポートの必要性

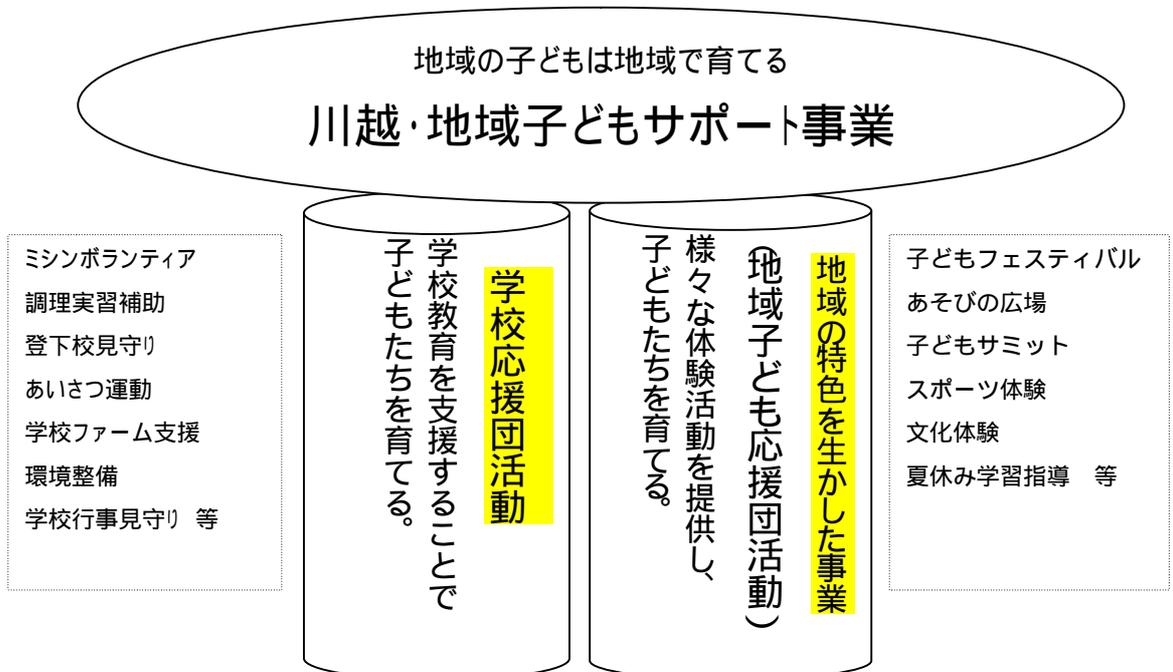
子どもたちが、生涯にわたってたくましく生きていくためには、豊かな人間性や社会性などの「生きる力」を身に付けていくことが大切であること。

子どもたちの自然体験、生活体験、社会体験などの様々な体験不足、家庭や地域社会で多くの大人との交流やふれあいの機会が減少していること。

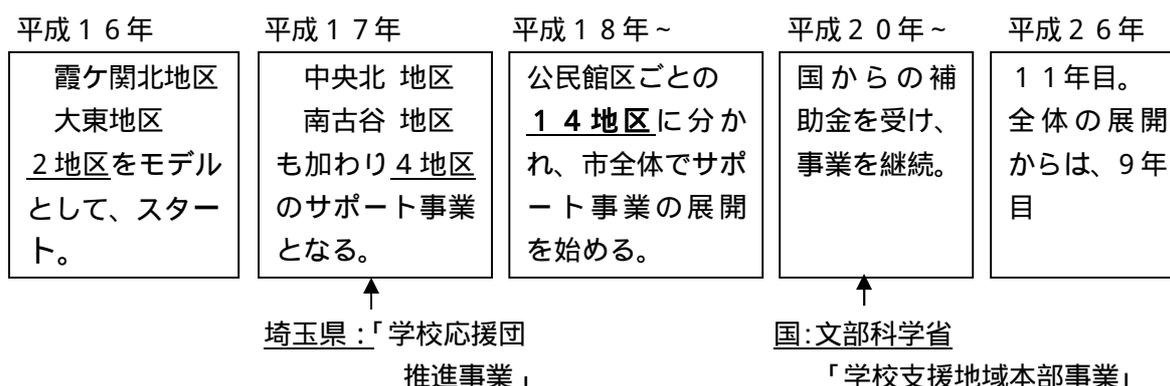
学校、家庭、地域、社会教育施設が、地域資源・地域情報を共有し、協働して効果的、総合的に子どもたちをサポートしていくことが必要であること。

- ・大人たちが協働して行う活動を通してコミュニケーションを深め、互いの信頼関係を構築する。
- ・地域の子どもたちは地域で育てるというメッセージを発信するため、地域住民への情報提供・啓発をする。
- ・学校や地域、社会教育施設において、子どもたちと多くの地域住民が関わる学習や体験の充実を図るため、地域共有の人材の発掘、人材活用に努める。

2. 子どもサポート事業の2つの柱



3. 子どもサポート事業の経緯



4. 事業内容

(1) 平成25年度川越市地域子どもサポート本部会議（3回）

本部委員：自治会連合会、小学校長会、中学校長会、PTA連合会、子ども会育成団体連絡協議会、青少年を育てる市民会議、大学関係者、各地区サポート委員会代表者			
協力委員：中央公民館長、中央図書館長、博物館長 <本部委員21人、協力員3人>			
子どもサポートに関する共通認識と情報交換 子どもサポートに関する総合的な啓発 各地区子どもサポート委員会の支援と調整			
日時・会場	内 容		出席数
平成25年 6月25日(火) 午後6時～ 北公民館	平成25年度のサポート事業の方針説明 平成25年度各地区の取組について情報交換・意見交換 子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」について 子どもサポート発表会実行委員会について		20人
平成25年 11月19日(火) 午後6時～ 7AB会議室	子どもサポート発表会実行委員会 ・審査部：「小江戸見つけ隊」作品審査 ・運営部：「子どもサポート発表会」プログラム検討 ・展示部：「小江戸見つけ隊作品展」計画案検討		21人
平成26年 2月19日(水) 午後6時～ 農業ふれあい センター	子どもサポート発表会に向けた確認 平成25年度子どもサポート発表会中止に至る経緯と課題 ・今後の対応及び来年度の会場について 「川越市子どもサポート本部会議設置要綱」の改正について 平成25年度各地区子どもサポート事業の成果と課題 今後の学校・家庭・地域連携推進について		20人

平成22年度から24年度に開催した市長をトップとする「地域ぐるみ教育推進ネットワーク会議」は、平成25年度より子どもサポート本部会議に包括することとした。

(2) 平成25年度「川越子どもサポート発表会」

平成25年度は、前日からの大雪のため中止（以下は、予定内容）

と き：平成26年2月15日（土） 午前9時00分～午前11時40分

と ころ：南文化会館（ジョイフル）ホール

内 容：1) 子どもサポート活動報告

10地区のスライドショー、川鶴・南古谷・高階・中央地区の実践発表

- 2) 委嘱研究校 研究発表
研究テーマ『学校・家庭・地域の連携』 武蔵野小学校
- 3) 子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」作品発表並びに表彰式
作文・絵画・新聞の各部門のベスト賞6人の発表及び表彰
- 4) 講評(川越子どもサポート発表会実行委員長)
各地区サポート委員会の実践報告は紙面資料で行う。

参加者予定数：360人

(3) 平成25年度 子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」

募集期間...9月2日～10月31日

- <ねらい> 子どもたちが、自分の住んでいる地域の良さを再認識できるようにする。
児童生徒と地域とのつながりを一層深め、地域ぐるみで子どもたちを育てていく意識を高める。
- <募集方法> 小学校1～4年生のジュニア部門と小学校5年～中学校3年生のスーパー部門に分けて、作文・絵画・新聞の3部門について募集する。

出品数	絵画	作文	新聞	合計出品数	総計
ジュニア部門	260点	27点	65点	352点	876点
スーパー部門	291点	30点	203点	524点	

- <表彰人数> ベスト見つけ賞(最優秀賞) 計 6人
小江戸賞(優秀賞) 計 6人
子どもサポート賞(入賞) 計 18人 全合計 30人
- <展示会> 川越市立美術館市民ギャラリーにて、全作品を展示する。
2月19日～23日の5日間展示、909名来場。
- <過去の応募数>
H23 571点応募(509名来場) H24 627点応募(666名来場)

(4) 「学校・家庭・地域の連携」に関わる研修会

- <実施期日> 平成25年9月7日(土)18:00～19:00 北公民館会議室
- <ねらい> 教職員と保護者・地域が共通理解することにより、学校・家庭・地域が連携し、地域ぐるみの教育が進められるようにする。
学校と家庭・地域の連携による教育活動を通して、子どもたちの生きる力が確実に育まれるようにする。
- <内容> 講演会：「地域にできる不登校児童生徒・発達障害児童生徒への支援のあり方」
講師：東京国際大学人間社会学部 教授 齋籐 敏靖 氏

(5) 川越子どもサポート新聞「ひと、ホット、ほっと！」の配布

- <ねらい> 各地区におけるサポート事業の取組の様子や本事業に係る会議、研修などの内容を各小中学校、公民館、関係機関等に配布し、子どもサポート事業の啓発に努める。
- <テーマ> 「地域の人(ひと)との温か(ホット)なふれあいを通して、心温まる(ほっとする)体験を子どもたちに！」
- <内容> 年4回発行。7月、10月、12月、3月に発行。オレンジ色の用紙に印刷。

5 . 決算の推移、活動数集計

(1)川越・地域子どもサポート推進事業 決算の推移

【単位:円】

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
予算現額	5,000,000	4,457,000	4,034,000
支出済額(決算額)	4,225,196	4,192,581	3,859,468
国からの補助金	1,408,000	1,342,000	1,286,000

サポート事業の委託金 各地区 140,000円 × 14地区
 学校応援団活動消耗品費 各地区 75,000円 × 14地区

(2)14地区子どもサポート委員会 委員数・開催数集計

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
サポート委員数	572人	607人	615人
サポート委員会の開催数	141回	133回	133回
サポート委員会延べ出席者数	2,727人	2,757人	2,731人

(3)14地区子どもサポート委員会 事業数等集計

		平成23年度	平成24年度	平成25年度
学校応援団活動	事業数	144件	225件	569件
	参加者数	2,444人	2,592人	9,368人
地域の特色を生かした事業数(イベント型事業数)	事業数	125件	127件	140件
	参加者数	17,025人	28,347人	20,749人
合 計	事業数	269件	352件	709件
	参加者数	19,469人	30,939人	30,117人

	委員会	公民館等	中学校等	小学校
1	中央	中央公民館 中央図書館	川越第一中学校 富士見中学校	川越第一小学校 中央小学校 仙波小学校
2	中央南	南公民館 東口図書館	城南中学校 野田中学校	新宿小学校 大塚小学校 泉小学校
3	中央北	北公民館 博物館	初雁中学校	川越小学校 月越小学校 今成小学校
4	芳野	芳野公民館	芳野中学校	芳野小学校
5	古谷	古谷公民館 教育センター	東中学校 県立川越特別支援学校	古谷小学校
6	南古谷	南古谷公民館	南古谷中学校	南古谷小学校 牛子小学校
7	高階	高階公民館 高階南公民館 高階図書館	高階中学校 高階西中学校 寺尾中学校 砂中学校	高階小学校 高階南小学校 高階北小学校 高階西小学校 寺尾小学校
8	福原	福原公民館	福原中学校	福原小学校
9	大東	大東公民館 大東南公民館	大東中学校 大東西中学校	大東東小学校 武蔵野小学校 大東西小学校
10	霞ヶ関	霞ヶ関公民館	霞ヶ関中学校 霞ヶ関西中学校	霞ヶ関小学校 霞ヶ関南小学校 霞ヶ関西小学校
11	霞ヶ関北	霞ヶ関北公民館 伊勢原公民館 西図書館	霞ヶ関東中学校	霞ヶ関東小学校 霞ヶ関北小学校
12	川鶴	川鶴公民館	川越西中学校	川越西小学校
13	名細	名細公民館	名細中学校 鯨井中学校	名細小学校 上戸小学校 広谷小学校
14	山田	山田公民館	山田中学校 城西大学附属川越高校	山田小学校
計	14地区	公：17館 図：4館 他：2館	市立中：22校 県立高：1校 私立高：1校	32校

ブロック・地区		各地区サポート委員会の主な活動
北 部	中央	情報誌「Eye 愛」年3回発行、青空児遊館（各小学校）わがまちをカメラが覗く景観百選、子どもサミット、いじめ防止対策会議
	中央北	情報誌「子どもspはつかり」年3回発行、夏休みの寺子屋教室、高校文化祭見学ツアー（川越高校）小学校学習支援（生活科昔遊び）まが玉作り、料理教室、冬の広場で遊ぼう（子どもの城）
	芳野	情報誌「我ら芳野っ子」年4回発行、土星観察、寺子屋芳野っ子、キッズ・コーナー（地区体育祭）綱引き大会、わら草履づくり、スキー教室、講演会
	山田	情報誌「山田っ子通信」年2回発行、小学校支援（学習「総合学習」「生活科」「図工」「家庭」、学校ファーム、環境整備「除草」）中学校支援（学習「農業体験」「文化体験学習」、環境整備「樹木剪定・除草」）かかし祭り支援、下校付添（小学校1年、小中合同）中学校補習支援（地区内私立高校が協力）
南 部	中央南	情報誌「中央南ホットネット」年2回発行、小学校支援（学習「生活科」「家庭科」「戦争体験」、学校ファーム、緑のカーテン）中学校支援（学習「家庭科」、環境整備「植木剪定」、安全「ロードレース見守り」）
	大東	情報誌「大東ネット」年2回発行、大東子どもフェスティバル、小学校支援（1年生清掃指導、福祉体験、クラブ支援、総合学習）中学校支援（書き初め）地区子ども会行事支援、学校行事支援、「こどもの広場」への協力
	福原	情報誌「ふくはら 子どもネット」年4回発行、ロケットを見に行こう、子どもまつり・芋煮会、あいさつ声かけ運動、学校支援（学校ファーム）
東 部	高階	情報誌「たかしな子どもニュース」年2回発行、5校区ドッジボール大会、高階南ファミリーコンサート、武蔵野ふれあいの森コンサート
	古谷	情報紙「古谷の輪」年1回発行、親子凧揚げ大会・防災教室、学校支援（小中学校環境整備）土曜日学級「はらっぱ」への協力、夏休み子ども自習室、盆踊り大会への支援、古谷地区子どもサポート作品展
	南古谷	情報誌「ときめき情報局」年4回発行、稲作体験、ホテル鑑賞会、かかしまつり、子ども文化祭、子どもサミット（2回）ウインドオーケストラの活動、ニューイヤーコンサート、防災キャンプ、地区行事支援、学校ファーム支援、講演会
西 部	川鶴	情報誌「はぐくむ」年1回発行、川鶴地区子どもサポートフェスティバルの実施（第1回川越西小:防災体験訓練、防災キャンプ、第2回川越西中:グループ対決ドッジビー、部活動体験、豚汁講習会）
	霞ヶ関	情報誌「子どもサポートネット」年2回発行、小学校支援（学習「生活科」「図工」、安全「持久走」、行事支援）中学校支援（安全「体育祭」「合唱祭」「ロードレース」、学校ファーム）子どもまつり支援、地域啓発講演会
	霞ヶ関北	情報誌「子どもネット」年5回発行、小学校支援（学習「家庭科」「社会科」「生活科」「総合的な学習」、環境整備「ビオトープ」、行事「遠足引率」）中学校支援（学習「総合・地域ふれあい体験講座」、部活動支援）夏休み宿題サポート、英語交流会（東京国際大学）子どもフェスティバル（霞北小）中学生レクリエーションリーダー育成、水辺の楽校、公民館合宿通学、地域啓発講演会
	名細	情報誌「豊かななぐわし」年3回発行、さつまいも植え付け体験・収穫体験、小学校学校行事支援（せんべい焼き体験・販売）ものづくり教室、地域啓発講演会、小江戸マラソン応援

